

---

杉並区立こども発達センター  
児童発達支援（個別指導）  
第三者評価結果報告書

---

令和5年度（2023年度）  
特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構



## 目次

---

1.理念・方針、期待する職員像.....	1
2.利用者調査.....	2
3.組織マネジメント項目.....	5
4.サービス提供のプロセス項目 .....	14
5.サービスの実施項目.....	19
6.事業者が特に力を入れている取り組み.....	24
7.全体の評価講評.....	25



1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)適切な療育支援の実施 2)利用者の声に耳を傾け、サービスの向上に努める 3)職員の専門性の質の向上 4)保護者が子どもの発達の見通しをもち、安心して子育てができるように支援する 5)地域における障害児支援の中核的役割を担う</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割 自治体職員として、福祉施策の充実のために療育、福祉の専門知識及び技術の向上を目指して、自己研鑽に努め、質の高いサービスを提供する職員</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 自治体職員として、発達に心配のある子どもとその家族を支援する施策を担って、サービスを提供すること</p>

調査対象

利用登録している子ども365名の保護者362世帯。

調査方法

①調査のお願い文書、②調査票、③返信用封筒を施設側に送付し、施設の職員から保護者個々に配布してもらい、保護者からは返信用封筒にて直接評価機関へ返送していただいた。

利用者総数  
利用者家族総数(世帯)  
共通評価項目による調査対象者数  
共通評価項目による調査の有効回答者数  
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

365  
362  
362  
125  
34.5

## 利用者調査全体のコメント

・調査票記入者は次の通りである。「父」11名(9%)、「母」106名(85%)、「父母一緒に」4名(3%)、「無記入」4名(3%)。  
・総合的な満足度では、「大変満足」69名(55%)、「満足」50名(40%)、「どちらともいえない」4名(3%)、「不満」2名(2%)であり、「大変満足」「満足」と返答した方々は回答者の95%であり、施設のサービスに対して非常に高い満足を得ている。  
・自由な意見では、「育てにくい子を抱えて、孤独感を持つこともありますが、センターの皆さんと話をすることで、気持ちが和らぎます」「親子で通う療育は、子どもの成長のきっかけとなっており、また成長を実感できる場ともなっています」「親身に寄り添って対応してくれるので、親にとっては本当に心強い施設であり、親のメンタル面での大きな支えにもなっています」などのコメントが寄せられた。

## 利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	113	12	0	0
回答者の90%が「はい」と返答し、子どもの身体機能や健康維持・促進に関して非常に高い満足を得ている。「いつもリハビリの次の日から、急に話をたくさんするようになったりしています。リハビリの効果を実感しています」「センターでの遊びや活動を通して、子どもの成長を確認することができます」「家ではできないこともありましたが、通うことにより、少しずつできるようになり、成長を感じています」「家とは違う刺激を受けている様子が感じられます」などのコメントが寄せられた。				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	113	11	1	0
回答者の90%が「はい」と返答し、子どもの興味や関心ある活動に関して非常に高い満足を得ている。「いつも子どもが興味を持つような遊びを考えてくれるので感謝しています」「子どもの気分に合わせて、活動内容を変えたりしてくれます」「子どもの様子を見て、リハビリができそうか判断してくれたり、遊びを選び提案してくれたりしています。楽しそうに活動がおこなえていると思います」などのコメントが寄せられた。				
3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っているか	98	19	5	3
回答者の79%が「はい」と返答し、子どもの情緒面での発達に関して概ね満足を得ている。「センターに通うようになってから、色々な人たちと関わる機会があるので、言葉や挨拶の引き出しが増えてきているように思います」「集団での順番など学べていると思います。切り換えも上手になりました」「親の私も、先生の声かけのやり方など、勉強になっています」などのコメントが寄せられた。				

4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についているか	88	28	6	3
回答者の70%が「はい」と返答し、社会性の習得に関して概ね満足を得ている。「同じクラスの子ども同士で、ゆずりあったり取り合ったりしながら、共有することを学んでいます」「人の気持ちカードもあり、言葉をたくさん教えてくれます」などのコメントが寄せられた。				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	119	4	1	1
回答者の95%が「はい」と返答し、家庭と事業所との情報共有に関して非常に高い満足を得ている。「来年度からたんぼぼ園に入園します。担当の職員の方も、こまめに子どもの様子を聞いてくれたりしてくれるので、ありがたいです」「子どもの成長や変化で困っていることなどを相談しながら、保護者の要望も聞き、その都度新しいサポート内容を取り入れてくれるので、助かっています」などのコメントが寄せられた。				
6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	88	24	5	8
回答者の70%が「はい」と返答し、家族に対する精神的なサポートに関して概ね満足を得ている。「センターに通っている他の保護者と、いろいろな話ができる場が増えたら幸いです」「精神的なサポートは、とても細かく手厚いと思います」「いつも親身になって聞いてくれるので、親も心強いです」などのコメントが寄せられた。				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	122	3	0	0
回答者の98%が「はい」と返答し、事業所内の清掃、整理整頓に関して非常に高い満足を得ている。「ホコリやゴミが少し気になるところがあります」「ハイハイで移動する子どももいるので、床がきれいだと安心できると思います」「清掃担当の方が、いつも丁寧に掃除されているのを見ます」などのコメントが寄せられた。				
8. 職員の接遇・態度は適切か	120	3	1	1
回答者の96%が「はい」と返答し、職員の接遇・態度に関して非常に高い満足を得ている。「職員の方たちの口調は、ゆっくりで優しく、楽しくて柔らかいです。その表現には見習うことばかりです」などのコメントが寄せられた。				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	106	2	0	17
回答者の84%が「はい」と返答し、緊急時の対応に関して高い満足を得ている。「毎回、看護師が体調を気遣ってくれるので、心強いです」「いつも気遣ってくれるのでありがたいです」などのコメントが寄せられた。				
10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	78	11	0	36
回答者の62%が「はい」と返答し、「どちらともいえない」9%、非該当29%であった。「トラブルの経験はありませんが、先生たちの対応はきっと大丈夫だと思っています」「これまでに子ども同士のトラブルの経験はありませんが、先生を信頼しています」「そのようなことがあると、すぐに駆けつけて対応してくれます」などのコメントが寄せられた。				

11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	122	2	1	0
<p>回答者の97%が「はい」と返答し、子どもの気持ちの尊重に関して非常に高い満足を得ている。「本人がやりたくないときは、無理にやらせようとするなど、本人の意思を尊重してサポートしてくれます」「子どもの気持ちを尊重して、丁寧に対応してくれています」「子どもが乗り気でないときは、他の遊びを提案してくれるなど、子どもの気持ちを大切にしてくれているなど感じています」「いつも子どもの気持ちに寄り添い、丁寧に接してくれます」などのコメントが寄せられた。</p>				
12. 子どものプライバシーは守られているか	115	5	0	5
<p>回答者の92%が「はい」と返答し、子どものプライバシー保護に関して非常に高い満足を得ている。「どのように守っているのかはわかりませんが、これまでに嫌な思いをしたことがありません。大切に守ってくれていると思います」などのコメントが寄せられた。</p>				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	118	4	1	2
<p>回答者の94%が「はい」と返答し、個別計画作成時における要望把握に関して非常に高い満足を得ている。「利用時間を午後から午前に変更してくれたので、ありがたかったです」「まずこちらの意見を聞いてくれます」「毎回、こちらの要望を丁寧に確認してくれます」などのコメントが寄せられた。</p>				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	118	3	4	0
<p>回答者の95%が「はい」と返答し、サービス内容や計画の説明に関して非常に高い満足を得ている。「担当職員の説明は、いつもわかりやすいです」「きちんと一対一での面談があります」「疑問点や質問事項があると、時間をかけてわかりやすく説明してくれます」などのコメントが寄せられた。</p>				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	102	6	3	14
<p>回答者の82%が「はい」と返答し、利用者の不満や要望への対応に関して高い満足を得ている。「不満はありません。要望があったときも、きちんと対応してくれました」「困り事やお願いしたいことがあると、話を聞いて一緒に考えてくれるので助かります」などのコメントが寄せられた。</p>				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	86	17	8	14
<p>回答者の69%が「はい」と返答し、「どちらともいえない」14%、「いいえ」6%、非該当11%であった。</p>				



I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	4月の職員会議で、該当年度の目標について説明し、その理解浸透を図っている 4月の職員会議で、所長は該当年度の目標について説明し、共通認識を一つにしている。令和5年度は当センターが開設して26年目を迎える。これまで、地域における療育支援の底上げを担うなど中核施設としての役割を担ってきた。その役割を果たしていくためにも、再度、区立施設が担うこと、民間事業者が担うところを明確にしたうえで、増加している療育需要や新たなニーズに対応していくための取り組み、地域での療育体制の充実を図るための取り組み、充実した区民サービスの提供のための取り組みを明らかにし、職員へ説明している。	
	通園開始時に療育のねらいを保護者に説明している 「親子グループのしおり」に療育のねらいを明記し、通所開始時に保護者に説明している。また、重要事項説明書にも、事業の目的および運営方針を明記し、契約時に保護者に説明している。そのほか、言語心理指導やリハビリテーションなどについても実施目的や実施内容などについて保護者に書面で周知している。また、各種感染症に罹患した場合に来所を控えてもらう期間や治癒証明書が必要な感染症などについて、書面で保護者に周知している。その都度、お知らせを配付し、センターの決定事項などを周知している。	
	センター内係長会により、課題解決に向けた検討、確認をおこなっている 園長、係長、主査などの階層別の役割は、職員事務分担表で定めている。各係長が、係内の状況を踏まえ、センター内係長会により、課題解決に向けた検討、確認をおこなっている。その内容は、各係会または職員会議により、職員全体に伝え、全体化を図っている。そのほか、グループミーティングなどでも利用者情報の共有や業務改善について検討している。また、看護師や作業療法士、理学療法士は、区内各施設の職種別連絡会に参加し、そこで話し合った内容を職員会議で報告している。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>年1回、保護者に事業所評価をおこなってもらい、保護者のニーズを把握している</p> <p>療育や保護者支援など、必要なテーマを設定したアンケートを適宜実施し、保護者の意向を把握し、センターの取り組みに反映している。「児童発達支援ガイドライン」に基づき、年1回、保護者に対して事業所評価をおこない、その集計結果について保護者に周知している。また、保護者の要望や意向への対応について検討し、改善を図っている。「保護者同士で話す機会が少ない」という保護者の意見に対して、家族交流会や年1回先輩保護者の話を聞く会を実施している。</p> <p>区児童発達通所支援関連部署で定例会を開催し、地域の療育ニーズを情報収集している</p> <p>月1回、区の児童発達通所支援関連部署で定例会を開催し、地域の療育ニーズなどについて情報収集している。区内児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所連絡会に参加し、各事業所の動向などについて情報収集している。保健センター、特別支援教育課、子ども家庭支援センターなどの区内関係機関と連携し、必要な情報を収集している。</p> <p>区の計画などに沿ってセンターの取り組み課題を立案し、進捗状況を確認している</p> <p>中長期計画に相当するものとして、杉並区総合計画および杉並区実行計画があり、これらを踏まえて区の担当課が定めた組織目標に沿ってセンターの事業計画(目標シート)を策定している。センターの「目標シート」に個別の目標・水準・期日とともに、達成するための計画と手段を記載している。その後、毎月の係会や職員会議で実施状況を確認している。また、中間評価(進捗状況・年度末に向けた取り組み)、年度末(1年間の成果と反省)を実施し、次年度の計画につなげている。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常的言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

### カテゴリー3の講評

#### サービス提供の基本姿勢などについて「倫理綱領」を定め、職員への周知を図っている

新任職員に対して、研修を通して、社会人・公務員としての自覚を促すために、基本の挨拶、適切な言葉遣いができるようになること、公務員服従の基本を理解することを教育指導している。「倫理綱領」を作成し、サービス提供の基本姿勢やそれに基づく支援の心構えを定め、職員への理解浸透を図っている。倫理綱領は、事業所内の掲示や職員会議、研修などを通して、理解浸透を深めている。虐待防止に関する研修を実施し、身体拘束適正委員会を設け、対象児童リストを出し、ケース検討もおこない、権利擁護に取り組んでいる。

#### 契約時に重要事項説明書を使って、利用者に苦情窓口について説明している

「重要事項説明書」に苦情受付窓口(センター所長)、区の苦情受付窓口(障害者施策課指導担当)、東京都の苦情受付窓口(東京都社会福祉協議会福祉サービス運営適正化委員会事務局)を明示し、契約時に利用者に説明している。また、苦情箱の設置や、第三者委員による相談会を実施している。親子通園時に保護者の意見や要望を聴き取り、職員間で共有、検討している。

#### 「療育講座」や「施設公開」などを実施し、区全体の療育の質向上に寄与している

センターの事業内容などを関係機関に紹介し、関係機関相互の理解を深める機会として「施設公開」を実施している。「療育講座」は保護者支援を目的に講義形式の講座を年2回、体験型を1回を開催している。口腔ケアなどをテーマに保護者・関係者を対象に「摂食講演会」、学童クラブ、保育園、放課後等デイサービス事業所への摂食指導研修を実施している。区内全体の療育の質の向上を目的に、支援者を対象に外部講師によるワークショップ形式や事例研修会などを取り入れた「支援者セミナー」、保護者および支援者対象に「実践報告会」を開催している。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ4の講評		
<p>軽微なリスクもヒヤリハットとして集計分析し、再発防止に活用している</p> <p>軽微なリスクも含めてヒヤリハットとして挙げ、その集計分析をおこない、職員間で共有し、再発防止に取り組んでいる。まずは「ひやりハット(メモ)」に記載することを習慣化し、職員のリスク感性を高めている。また、事故発生時は定例会議などで、一つひとつの事案に関して、事象、職員の動きなども確認し、今後の対策について話し合っている。また、棚などの転倒防止を図ったり、トランポリンの事故予防策として使用上のルールを新たに作るなど、事故予防に向け随時検討し、対策を講じている。</p> <p>安全計画を策定し、安全点検や避難訓練、感染症予防などの研修を実施している</p> <p>安全計画を策定し、毎月、園舎内外や大型遊具を含む園設備の点検、散歩先公園やルートの安全確認、散歩実施時の安全チェックと検討、園庭プールの環境および用具の確認、送迎バス置き去り防止手順の確認などについてスケジュール化している。さらに毎月の避難訓練や感染症予防研修、嘔吐物処理訓練などもおこなっている。年1回、警察署の協力による不審者対応訓練、両隣の施設と一緒の総合防災訓練も年2回実施している。杉並区業務改善計画に基づいたBCP計画も作成している。</p> <p>「杉並区個人情報の保護に関する条例」などに基づいて情報の運用管理をおこなっている</p> <p>「杉並区個人情報の保護に関する条例」「杉並区情報セキュリティ基本方針」に基づいて情報の運用管理をおこなっている。通園開始時に保護者に対して重要事項説明書を使って、法令に基づいて利用者の記録および情報を適切に管理することなどを説明している。紙媒体の個人情報資料は鍵のかかる書庫で保管している。「個人情報持ち出し簿」を使って情報の漏れがないようにしている。電子データは、区ネットワークドライブに保存・管理し、アクセス権限を設定している。区の「情報公開制度」に基づき開示請求に対応することとしている。</p>		

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

#### カテゴリー5の講評

##### 正規職員は区人事課が募集・採用し、有資格者で構成されている

職員採用は区の人事政策に基づき、必要な人員の採用と適正な配置をしている。正規職員は区人事課が募集・採用し、障害者支援をおこなううえで必要な資格を持つ者で構成されている。会計年度任用職員はセンターで募集・採用している。常勤職員の異動、配置は区人事課がおこない、毎年、「異動希望調査」で職員個々の希望を確認している。それも踏まえ、区の職員として幅広い見地から業務がおこなえるよう定期的な異動をおこなっている。事業所が求める人材像は、杉並区人材育成計画にて明示されている。

##### 区や外部団体主催の研修、職場内研修などを通して、職員の資質向上を図っている

区の研修体系が構築されており、必要な区主催研修に職員を派遣している。そのほか、センターで求める人材像に向け、OJTや職場内研修を通じて、支援方法や利用児への関わり方などについて職員全体で理解に努めている。また、摂食・嚥下、虐待対応、発達障害、てんかんなどの支援に必要なテーマを設定した外部研修にも積極的に職員を派遣している。また、体験研修として区立保育園に出向き、集団保育活動を体験的に学ぶ機会も設けている。研修受講後は、職員会議で報告し、全体で共有している。

##### 年2回の人事評価の面談など、職員へのサポート体制を整えている

正規職員には「目標申告シート」を使って、年2回、係長、所長との面談を通して、個人目標を設定し、各職員がその役割を果たしていけるようにしている。面談では同時に、仕事上の課題や不安を聞き取り、職員が安心して仕事ができるよう配慮している。新卒者には、安心して仕事ができるよう、育成担当職員を配置してサポートをおこなっている。育成担当職員には、年2回の研修をおこない、あわせて係長からの支援も受け、新任職員育成担当者への育成も丁寧におこなっている。安全衛生委員会も設け、職場環境をチェックし、環境改善を図っている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

就労家庭の増加やきょうだい児への関わりなどにより、毎週の利用が難しいケースが増加している。そのため、前年度、1歳・2歳児の支援について、毎週実施していたグループの体制を見直し、隔週実施の受け入れ枠を広げた。隔週実施のグループ希望者が増加し、ニーズが高い様子がうかがえた。そのため、令和5年度の実施体制として、隔週実施のグループを新設した。保育園利用者が多いため、児童発達支援を利用した後も、保育園を利用して通勤しやすいようにグループの開始時間を早めて実施するようにした。また、連絡カードを作成し、保護者とコミュニケーションを図る機会の増加に取り組んだ。

目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

2歳児各グループ4名まで、隔週枠を増やした。1歳児も4名まで隔週枠を確保していたが、隔週希望が多かったため、毎週枠を隔週枠に分けて、隔週枠を増やした。保護者の療育利用のニーズ増に対して、枠数を増やすなど、柔軟に対応している



評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

職員の支援力強化のため、活動内容などの療育全体に関すること、保護者支援などについて、職員間で情報共有の機会を作り、支援力の向上を図るとともに、職員間のコミュニケーションを深めることを目標に掲げた。福祉職員を中心としたグループワークの場を年4回実施した。互いの考えや知識、方法など様々な経験を共有し支援に活かせるように、テーマ設定や意見発表の機会を工夫した。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

前述した取り組みにより、療育についての考え方やプログラムの立て方、遊びの提供の工夫などを職員全体で共有することができた。小グループでのミーティングの中で活動や遊びのねらい、支援場面で困っていることや疑問を話し合えたことで、若年層の職員の育成や日々の業務の中での職員間のコミュニケーション向上につながった。新人職員に対しても、日々の業務の中での素朴な疑問に対して、発言できる環境をつくった。担当者が挙げたテーマだけでなく、新人および異動職員からテーマを募り、具体的な悩みについて討議する機会も持つことができた。次年度も、福祉職員を中心としたグループワークの場を年4回実施予定である。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
		サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評			
<p>利用希望者等に対して、パンフレットや「事業概要」を作成している</p> <p>利用希望者等に対して、パンフレットを作成している。パンフレットには、事業内容・対象者・費用・サービス内容アクセスなど、必要な情報が簡潔に記載されている。パンフレットは、区役所や児童発達相談係、保健センター、福祉事務所、ひととき保育(短時間利用の施設)など子育て中の区民の目に触れるような場所に置いている。さらに詳しく事業内容について知りたい方には「事業概要」を用意している。「事業概要」には、施設の概要・組織および職員配置・療育の流れなどが掲載されており、見学者などに配布している。</p> <p>区の児童発達通所支援関連部署の会議で、利用状況を報告している</p> <p>外国籍の利用希望者に対しては、ひらがな表記の資料を作成したり、通訳を利用して伝え、保護者が安心して利用できるよう情報提供をおこなっている。そのほか、月1回、区の児童発達通所支援関連部署の会議で、利用状況等を報告している。利用にあたっては、相談支援事業所との連携が必要となるため、相談支援事業所へ必要な情報を提供している。併設の相談支援事業所の他、民間の相談支援事業所を利用している方もいる。</p> <p>随時、利用希望者のグループ体験も受け入れている</p> <p>問い合わせや見学希望者には、担当係長などが個別にて対応している。集団指導への利用希望児と保護者には、グループ活動体験の機会を提供している。実際の療育場面を見て、参加し、イメージをもって利用開始できるようにしている。また、子どもの発達についての心配事や保護者の不安も聴き、対応している。0歳児グループに関しては、生後3か月から相談に応じ、遊びの紹介や保護者との交流の場としている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>「親子グループのしおり」などを使って、持ち物や通園バスについてなどを説明している</p> <p>児童発達相談係で初回面接と発達評価を終えた後、療育の親子体験とともに、個別面談を実施し、センターでの支援内容について説明している。療育の親子体験後に感想を聞き、希望者に申請書を提出してもらい、療育方針会議を経て、区の受給者証の支給決定後、契約手続きとなる。契約は、通所開始当日に、係長、もしくは主査が同席し、契約書や重要事項説明書を説明し、同意のうえ、署名をいただいている。</p> <p>親との関係作りをしながら少しずつ児に対して遊びに誘い、安心につなげている</p> <p>児童発達相談係からの初回相談時の聴き取り内容を引き継ぎ、職員間で親子の生活全般の状況を踏まえたうえで、支援を開始している。また、個別指導、および集団指導では、まず場所や担当者に慣れることを第一に対応し、安心して利用できるよう配慮している。親子通園であっても、馴染みの場所や、知らない人に囲まれると不安になる子どもも少なくない。そのため、「これからここが楽しいと思えるところにしていきましょう」「無理をせずに」と親に伝え、親との関係作りをしながら少しずつ児に対して遊びに誘っている。</p> <p>転居や就園などでサービス終了時は、支援の継続に配慮した対応をおこなっている</p> <p>契約第10条第2項に「サービスの提供終了に際しては、保護者及び利用児童に対して適切な援助を行うとともに、保健医療サービスまたは福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めます」と明記している。これを踏まえ、転居の場合は、移転先の自治体や療育施設の情報提供をおこなっている。サービス終了の場合にも、相談先として引き続き対応することを伝えている。保育所や幼稚園に就園した場合は、保護者の了解を得たうえで、これまでの支援内容などについて就園先に引き継ぎをしている。就園予定園の職員の見学希望がある場合には応じている。</p>			

サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 11/11
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している <span style="float:right">評点(〇〇〇〇)</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<b>サブカテゴリー3の講評</b>		
<b>「親子グループ聴き取り票」に子どもの生活状況などについて記録している</b> 利用開始時に「親子グループ面接記録」を使って、子どもの生活状況等を聴き取り、記録している。そこには、生活リズム、食事、排泄、遊び、コミュニケーション、家族の状況、子どものことで気になることなどを記録している。看護師は病気や熱性けいれん、食物アレルギー、薬品アレルギー、聴力検査、排便リズム、服薬内容、かかりつけ医療機関、健康上気になることなどを記録している。そのほか、「個人記録」へ利用に至った経緯などを詳しく記載している。これらの情報・記録から、利用児のニーズや課題を抽出し、児童発達支援計画を作成している。 <b>保護者の要望を把握し、児童発達支援計画を作成・更新している</b> 保護者の要望を把握し、児童発達支援計画を作成・更新している。そのため、計画作成のための個別面接を年2回実施している。「児童発達支援計画」には、具体的な支援方法を記載し、計画を保護者に説明し、同意のうえ署名をいただいている。計画内容は、児の体調や機嫌を見ながら、少しずつ経験を重ねていくような目標を立て、スモールステップの支援を大切にしている。6か月ごとに達成状況を確認し、具体的な児の様子を記録し、保護者にも説明している。 <b>親子グループには、2名の複数担当制を敷き、さらに専門職を配置し、情報共有している</b> 朝・夕のミーティングを実施している。朝のミーティングは、朝礼後に支援に関わる職員全体でおこない、その後、各グループでも共有している。夕方方のミーティングでは当日の振り返りをして特記すべき事項を共有している。看護師は「保健日誌」に利用児の健康状態について記録している。各グループに福祉職の他、看護師、心理士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士を配置しており、月1回、グループミーティングで利用児の状況変化について情報共有をおこなっている。当日、出席できない職員に対して、会議議事録を残し、情報共有の徹底を図っている。		

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		<input type="radio"/> 非該当
<b>サブカテゴリ-5の講評</b>			
<b>契約時に個人情報の取り扱いについて保護者に説明している</b> 「サービス提供をおこなううえで必要になる場合には、あらかじめ別紙のとおり同意書を取り交わした範囲内で情報を提供します」と重要事項説明書に明記し、契約時に保護者に個人情報の取り扱いについて説明している。さらに、「個人情報使用同意書」を使って、個人情報の使用目的、使用にあたっての条件、個人情報の内容について保護者に説明し、同意を得ている。通園中のビデオや写真撮影をおこなう場合は、同意書で了解を得ている。必要以外の氏名の掲示などを避け、園内の写真撮影では、他児の写真は撮影しないよう保護者をお願いしている。 <b>おむつ交換は、指導室内ではなく、トイレに移動しておこなっている</b> 保護者からの相談があった場合は、別室や別枠で時間を取るなどし、個別対応をおこない、他の人に聞かれないよう留意し、プライバシー保護に努めている。おむつ交換は、指導室内ではなく、トイレに移動しておこない、他の人の目に触れないよう配慮している。また、トイレでおむつ交換することで、乳児からトイレと生活の場所の違いへの意識づけを図っている。 <b>親子とも、リラックスして療育の場に参加できるように配慮している</b> 子どもにわかりやすい方法で意思確認をおこないながら支援している。「嬉しい」「楽しい」「いやだ」「できた」などの子どもの気持ちをくみ取り、共感し、その場にあった言葉や仕草を添えて表現方法を児に知らせている。また、表情や仕草で表現する子どもには、「いやだね」等と代弁して気持ちを汲み取っている。他方、外国籍の保護者同士が交流を図り、リラックスして療育の場に参加できるように配慮している。集団指導の中では、発達の状況や特性に配慮し、痲痺、他害などの行動で怪我を負わないよう配慮している。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p><b>業務遂行上、必要な各種マニュアルが作成され、いつでも閲覧できるようにしている</b>            感染症対策マニュアル、嘔吐処理マニュアル、緊急時対応マニュアル、送迎時の事故・緊急の対応(バス内)、給食マニュアル、アレルギー対応マニュアル、更新事務手続きマニュアルなど、業務遂行上、必要な各種マニュアルが作成されており、いつでも閲覧できるようにしている。「医療的ケアの流れ」など、その都度、必要なマニュアルも新たに作成している。マニュアル類は、保護者の要望や職員体制、制度の改正を照らし、現状との乖離を分析のうえ見直し・更新している。</p> <p><b>児童発達支援ガイドラインに従って職員・保護者の評価を実施し、改善につなげている</b>            年1回、児童発達支援ガイドラインに従って、「事業所職員向け児童発達支援自己評価表」「保護者等からの事業所評価」を実施し、集計結果をおこない、保護者・職員へフィードバックをおこなうとともに、保護者や職員の意見について検討し、サービスの改善につなげている。そのほかにも、保護者のニーズを把握して課題を検討し、改善につなげている。たとえば、言語心理指導では、職員の提案により、複数での指導を試行し、実践につなげることとなった。</p> <p><b>サービス向上を目的に事例検討をおこない、職員に気づきを促している</b>            提供しているサービスの内容については、中間総括会議や年度末総括会議で職員全体で見直しや検討をおこない、社会の変化や保護者のニーズに合わせて改善を図っている。また、サービスの向上に向け、事例検討をおこない、サービス向上への気づきを促している。たとえば、「感覚刺激を中心に楽しむ子の遊びを広げる支援」「感覚過敏のある子へのアプローチ方法」など、実際の支援の現場で役立つテーマを設定し、職員個々が自由な意見交換をおこない、事象を多角的に捉え、支援の幅を広げている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
		サブカテゴリー4 19/19
1 評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている		
		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1 個別の支援計画に基づいた支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目1の講評		
<p>計画に基づいた支援について、6か月ごとのモニタリングで確認している</p> <p>児童発達支援計画作成後、6か月ごとにモニタリングをおこない、目標に対する達成状況を確認し、具体的な児の様子を記録している。モニタリングを通して、園の療育が利用児の成長や発達にどの程度寄与しているかを振り返り、新たな課題やニーズがないかどうか確認し、より実践的な目標に向かって療育をおこなっていくよう努めている。年度末には、1年間のまとめと今後の課題について記録している。中間・年度末のまとめは、保護者にも説明し、同意のうえ署名をいただいている。</p> <p>子どもの特性に合わせた方法でコミュニケーションの発達を促している</p> <p>簡潔な言葉で表現したり、ジェスチャーを活用するなど、個々の子どもの特性に合わせた方法でコミュニケーションの発達を促している。また、写真や絵、実物を提示し視覚に訴えている。たとえば、粘土で遊ぼうと粘土を見せたり、プールに誘うときは水着を見せるなどしている。また、発語が始まった場合には、その子に見えるように、口を大きく開けてわかりやすく繰り返し発音したりしている。思いのくみ取り方や接し方などをグループ担当の心理職が親にアドバイスをしている。</p> <p>医療職を含め、子育てをサポートする機関とも連携し、より良い支援に務めている</p> <p>グループごとに2名の福祉職を担当としている。そのほか、グループ付きの看護師、心理士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士それぞれ1名が各グループ担当となり、連携して支援をすすめている。医療機関には必要に応じて、利用児が受診する際、保護者に了解をもらって、看護師が同行し、リハビリや医療的ケア、健康管理について情報交換し、連携を図っている。保健センターや子ども家庭支援センターなどの子育てをサポートする機関とも連携している。</p>		

2 評価項目2		この評価項目は入力できません	
【食事の支援がある事業所のみ】子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている		評点()	
評価	標準項目		
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	<input type="radio"/> 非該当	
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2の講評		この評価項目は入力できません	



3 評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評		
<p>やることに意識を向けるなど、子どもに合わせて生活面の自立を促している</p> <p>やることに意識を向ける、手を添えて方法を伝える、できないところのみ手助けする、プログラム終了時の片付けを促すなど、子どもに合わせて生活面の自立を促している。たとえば、来所時に、靴や靴下の脱ぎ履きの動作を定着させていくことを目標にしたケースでは、児の気持ちや視線が靴に向くように関わり、「靴や靴下を履いている・脱いでいる」という意識を持てるように促している。それ以外にも、ズボンやシャツ、上着などの着脱の動作もできるよう支援している。児が自らやろうとしり、できた時には十分に褒め、やる気につなげている。</p> <p>挨拶やマナーを生活の中で繰り返し・伝え、社会ルールの習得を支援している</p> <p>「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」「さようなら」などの挨拶やマナーを生活の中で繰り返しながら、児に伝えている。近所を散歩するときなどに「右みて左みて」などと交通ルールを教え、遊びの中でも他の子と一緒に遊ぶうえで守らなければならない順番や他の人が見ている本やおもちゃを「かして」などやりとりをするルールを、その都度、伝えている。グループの活動だけでなく、他のグループと一緒にプレイルームで身体を動かして遊ぶなど、大人数で遊ぶ経験も取り入れている。</p>		
4 評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p>定期検診や個別の医療相談も実施し、健康管理をおこなっている</p> <p>医療機関との連携が必要な児については、開始前に保護者を通じて活動内容等を伝え、配慮事項等を文書で確認している。また、利用開始にあたって、保護者から医療情報について聴き取りをおこない、健康状態を把握している。また、小児科の管理医師が来所し、利用児の診察や保護者・職員の健康相談にも応じている。</p> <p>親子での通所であるため、家庭での健康に関する情報を直接聞き取り、記録している</p> <p>親子での通所であり、家庭での睡眠や朝食、排泄、与薬、健康状態、検温などの健康に関する情報を直接聞き取り、記録している。また、看護師が視診を実施し、児の健康管理をおこなっている。必要がある場合には検温をしている。胃ろう、導尿などの医療的ケアの受け入れもしている。看護師が他職種へ医療的ケアのOJTなどを実施している。今後は、観察のポイントの整理や手技のマニュアル化などをおこない、職員の共通理解を図る必要があると考えている。</p> <p>「緊急時対応マニュアル」「救急・観察メモ」を作成し、緊急対応できるようにしている</p> <p>「緊急時対応マニュアル」「救急・観察メモ」を作成し、緊急時に落ち着いて対応できるようにしている。「救急・観察メモ」には、家族への連絡、主治医への連絡、救急車への連絡について記録している。また、意識の有無、呼吸の有無、口唇・爪色、顔色、体温、けいれんの有無、骨折・打撲、出血、嘔吐、SPO2・脈拍、異物の有無などについて記録されている。また、「緊急時対応マニュアル」などを作成している。フローチャートを使って、事故発生時に慌てず対応できるようにしている。</p>		

5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目5の講評

**親子グループでは自由遊びの時間を設定し、主体的な遊びが広がるよう支援している**

親子グループでは自由遊びの時間を設定し、主体的な遊びが広がるよう支援している。個別指導では、選択の機会を作り、子どもからの発信を待つ、気持ちの表出を受け止めることから、主体性を育む支援をおこなっている。できることを繰り返すことで、もっとやってみようという意欲や自信をもって安心して取り組める力につなげている。また、自分で考え楽しみながら創意工夫できる遊びも取り入れている。遊びを変える時などには、自分でどちらにするのか選択させるようにして子ども自身の気持ちをくみ取ることを保護者にも伝えている。

**子どもの特性に合わせた指導環境や、安全に活動できる環境設定などに配慮している**

子どもの特性に合わせた指導環境の設定をおこない、必要最低限の教材で注目を促すようにしている。カーペットやマットを敷き、安全に活動できる環境をつくっている。日により使用するグループが違う部屋の場合は、壁にそれぞれのグループ名の果物や花が貼ってあったり、周囲を子どもと一緒に作った作品で飾るなどして、私たちの部屋という雰囲気づくりを工夫している。

**親子で一緒に遊び、遊び方を伝えている**

親子で一緒に遊び、遊び方を伝えている。集まりの時には体操・手遊び・歌など、グループ活動の時には感触遊び、体を動かす遊び、音楽遊びなどの設定遊びを季節や子どもたちの様子に合わせて実施している。プレイルームではトランポリンやボールプール、坂を上る等の遊びをしている。登園後には自由に遊ぶ時間を設け、保護者とともに遊びが広がるよう支援している。

6 評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目6の講評

**親子通園であるため、直接、利用児について、当日の情報交換をおこなっている**

親子通園であるため、直接、利用児について、当日の情報を交換している。そのほか、電話や個別の相談時間を設定し、保護者と話す機会を設け、支援に活かしている。オンラインでの対応もおこなっている。個別面談は年2回、通園日の活動時間に実施しており、その時には他の職員が入って子どもを見ている。個別面談では子どもの現状の姿と支援の目標、具体的な支援方法とその結果を話し合い、保護者の要望を聞いて「児童発達支援計画」に生かし、家庭と園・専門職とが一体となって子どもを支えている。

**指導時に直接保護者に助言したり、必要に応じて文書とともに説明している**

利用申請時、通所開始にあたってのアセスメント、利用更新手続き時に家族からの要望を聴き取り、支援に活かしている。指導時に直接保護者に助言したり、必要に応じて文書とともに説明している。年1回、家族交流会を実施している。2歳児グループのみ、年1回、親子遠足をおこない、家族同士の交流の機会としている。「保健だより」で健康面についての情報を提供している。また、感染症等の情報を緊急一斉メールで情報発信している。「こども発達センターだより」や「こはつうしん」(年数回)を保護者に配付している。

**ヘルパーのサービス、一時保育などの情報を保護者に提供している**

家庭への支援としてヘルパーのサービス、一時保育、訪問看護ステーションなどの利用について紹介している。親子通園を確保するために、生後6か月までのきょうだい児をボランティアが対応している。生活7か月以降のきょうだい児にはひととき保育施設の利用をお願いしている。専門医が定期的に来所し、医療相談を実施しており、保護者も児童精神科、小児神経科、整形外科、歯科の助言を受けることができる。保護者向けの学習の機会として療育講座、摂食講演会、地域支援講座なども実施している。

7 評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>地域の最新情報や資料などを玄関ホールに置き、自由に入手できるようにしている</p> <p>さまざまな子どもに関する講演会や地域の最新情報、資料、パンフレットなどを玄関ホールに置き、自由に入手できるようにしている。また、必要に応じて、ひととき保育、児童館の乳幼児プログラム、地域の公園、日帰りショートステイなどの情報を案内している。保護者からの相談内容を受けて、該当する情報を提供している。発達の相談ができる医療機関を紹介できるようリスト化している。毎年、大学生の公認心理師の資格取得を目指す心理実践実習を受け入れている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-5	子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル①	「楽しく遊ぶ経験」を大切にし、楽しいと思える経験を重ねていけるよう支援している	
内容①	集まり、自由遊び、運動、感触、音楽、室内プールなどの設定遊びなどに加え、外部の専門講師による音楽療法もある。遊びながら療育を受けることを楽しみに来所することで、表情の変化が見られ、よく笑うようになったり、色々な遊びを楽しんで取り組む姿がみられている。「楽しく遊ぶ経験」を大切にしており、色々な遊びの中で楽しい気持ちや達成感を味わうことができるよう、活動内容を工夫している。また、他の人と一緒に何かをすることが楽しいと思える経験を重ねることで、コミュニケーションの土台となると考え、支援している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-2	子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している
タイトル②	保護者のニーズに合った児童発達支援計画を作成し、計画的に支援している	
内容②	保護者の要望に合わせて個別の相談(はぐタイム)を実施している。言語・コミュニケーションの発達支援、認知面の発達支援、対人関係・集団適応など社会性の発達支援、集団活動による支援などの観点から、保護者のニーズや発達検査の結果、専門職によるアセスメントを踏まえ、支援目標と具体的な支援内容を明らかにし、計画に沿って支援している。その後、6か月ごとに、子どもができるようになったことや変化などの到達状況も明記し、保護者にも丁寧な説明をおこなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル③	区民への障害の理解啓発、支援者への技術向上を積極的におこなっている	
内容③	区全体の障害児支援の充実を推進する役割を担っており、地域支援機能の強化に取り組んでいる。区内大学と協働して、発達障害児の支援に関わる者および関心のある区民を対象に発達支援についての知識を供与し、スキル向上を図っている。また、区内発達支援に携わる支援者のスキルアップのためのセミナーを開催、利用児の保護者や関係機関職員に対象の療育講座や施設公開を開催している。区民への障害の理解啓発、支援者への技術向上のための取り組みを積極的におこなっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	グループ活動では、親も児との関わり方を学ぶとともに、友だちと関わるのが楽しいと思えるような経験を積み重ねている
	内容	0～2歳児を対象に、親子で参加するグループと個別相談(はぐタイム)を実施している。グループ活動では、親子と一緒に遊ぶことで、親にも遊び方や児への関わり方を伝えている。また、他の利用児と一緒に活動できる機会を提供し、友だちと関わるのが楽しいと思えるような経験を積み重ねている。利用者調査では総合的な満足度に関して回答者の95%が満足と返答しており、「先生方が子どもの気持ちを尊重し良いところを伸ばす指導をしてくれるので、子育ての参考になり、多くのことを学びます」などのコメントが寄せられた。
2	タイトル	個々の利用児の課題・ニーズに合わせた個別相談(はぐタイム)を設定し、利用児の成長や育児の楽しさを保護者と共有している
	内容	個別相談(はぐタイム)では、利用児一人ひとりに合わせたスケジュールを作成し、言語聴覚士と心理職が一体化した指導・助言をおこなっている。その際は、グループ来所日以外で個別の時間を設け、心理、言語、作業療法士、理学療法士が連携し、担当の福祉職も加わり、子どもと活動を共にしている。発達検査や多様な個別の遊びを取り入れ、個別活動の時間を充実させている。活動の結果から子どもの様子、反応などは保護者にフィードバックしている。保護者と利用児の成長や育児の楽しさを共有する機会ともしている。
3	タイトル	多職種が連携し、多角的な視点から子どもを捉え、子どもの発達を支援している
	内容	親子通園グループは福祉職2～3名の担当制を取っている。そのほか、各グループには、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理職が配置されている。利用児一人ひとりに対して、各専門職がアセスメントをおこない、児童発達支援計画を作成し、計画に沿って、コミュニケーション面は心理職、運動面はリハビリ職、構音は言語聴覚士など、専門性を活かした発達の支援をおこなっている。また、打ち合わせやグループミーティングを通して、多職種で支援方法について意見交換し、また、目標の共有化を図っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	異動者や新卒者が円滑に支援にあたるよう、必要なマニュアルについて職員間で検討し、さらなる整備を期待する
	内容	感染症対策、嘔吐処理、緊急時対応(バス内)、送迎時の事故・緊急の対応(バス内)など、業務遂行上、必要な各種マニュアルが作成されており、いつでも閲覧できるようにしている。施設としては、より良い療育の提供を目指して、療育の基本事項や手順などについてのマニュアル作りをさらに進めていくことを課題としている。区内障害者へのケアをおこなう施設以外からの異動者もいる。そのため、異動者や新卒者が円滑に支援にあたるよう、必要なマニュアルについて職員間で検討し、さらなる整備を期待する。
2	タイトル	業務効率やサービス向上に向けて、各種記録のICT化に向けた取り組みが期待される
	内容	職員アンケートには、事業所の課題として「業務のペーパーレス化」とのコメントが寄せられていた。センターの利用者は300人以上であり、利用児全員の情報が紙媒体となっている。個人記録も手書きであり、支援状況が詳細に記録されている。しかし、後でその記録を過去に遡って検証していくとなると時間がかかる。業務効率やサービス向上に向けて、各種記録のICT化に向けた取り組みが期待される。
3	タイトル	会計年度任用職員へのスキルアップに向けたさらなる充実が望まれる
	内容	会計年度任用職員も職場内研修への参加対象となっているが、職員アンケートでは、「会計年度任用職員も正職員同様、スキルアップできる研修をおこなってほしい」などのコメントが寄せられた。会計年度任用職員は、職員全体の半数以上を占めており、サービス提供をおこなううえで欠かせない存在となっている。センター全体の質の向上に向けて、会計年度任用職員へのスキルアップに向けたさらなる充実が望まれる。

